

# 「津波発生時の効率的な避難経路を掲載したハザードマップの作成」

班員:水野隆博、江口陽翔、清家楓稀、平野太陽、三好暁斗、松浦暖真  
指導教員:大久憲一

## 1 研究背景

現在、宇和島市から配布されたハザードマップには避難経路が記載されていない。そこで、効率よく避難する経路が示されていれば、災害発生時に避難経路を考えていなかった人も安全に避難でき、可能な限り多くの人の命を救うことができる考えた。

## 2 研究目的

- (1)ハザードマップに、安全な場所までの最適なルートを記載することの重要性を示すこと
- (2)複雑な避難経路を見やすくする適切な表し方を見つけること

## 3 研究方法

- (1)宇和島市の地図をエクセルを用いてドット絵化し、簡略化したものから最短経路を導く
- (2)実地調査でそのルートの危険箇所や災害発生時に塞がれていそうな地点に対し、代替ルートを破線で記入する

## 4 検証方法

- (1)第三者による認識、シナリオテストの実施
- (2)予想避難時間と予想津波到達時間の比較

※成人と高齢者で歩行速度や勾配を2つに場合分けしたものをそれぞれ作成する

※安全な場所・・・宇和島市総合防災マップ上で津波浸水深0,01～0,3の範囲

※避難所に最適なルートは、色を分けたり、線の種類を変化させたりして視覚的にわかりやすくする

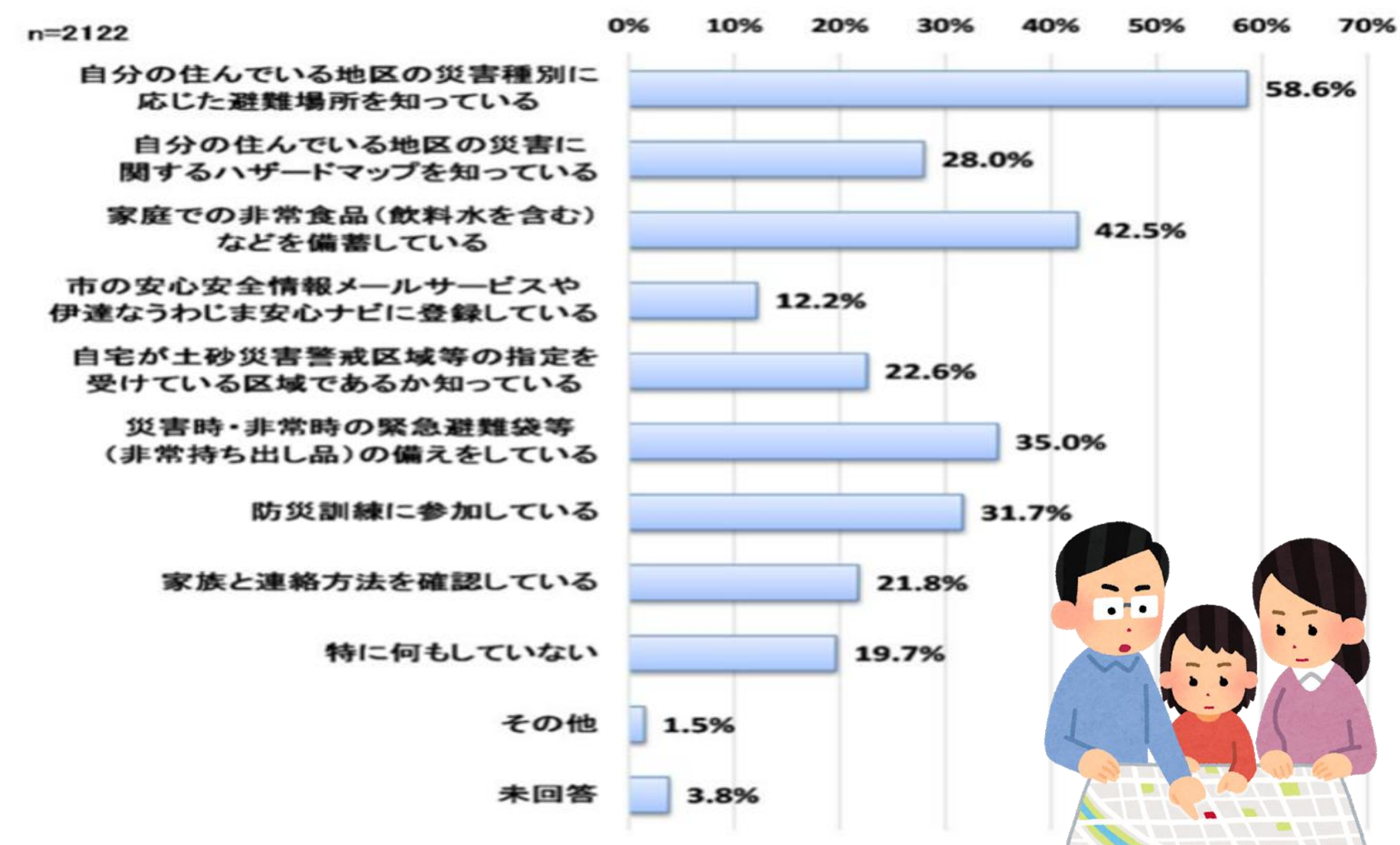


図1 宇和島市 復旧・復興に関する市民アンケート調査報告書(その1)より引用

アンケート結果から、災害への対策が不十分であることが地域課題であると分かる。この状態のまま被災すれば、多くの被害が出ると考えられる。